

【50 釈 文】江戸宿伊勢屋伝次郎年頭挨拶状

(文久四年：一八六四)

文久四甲子「略曆」

【三河万歳の大小絵、省略】

新春の御慶、目出度申納候、

万寿々々御機嫌能被_レ遊_二御越年_一、

恐悦奉_レ存候、先者年始之御祝儀

申上度、如_レ此御座候、恐惶謹言

御百姓宿

正月二日

伊勢屋

伝次郎

猶々、御出府之節、不_二相変_一御蟲履被_二成下_一、御最寄

御懇意様方へ宜敷御風聴、御推挙之程奉_二願上_一候、以上

【50 読み下し文】

文久四甲子「略曆」

【三河万歳の大小絵、省略】

新春の御慶び、目出度(めでたく)申し納め候、

万寿々々(ますます)御機嫌能(よく)御越年(えつねん)遊ばされ、

恐悦(きょうえつ)に存じ奉り候、先(まず)は年始の御祝儀

申し上げ度、此(かく)の如く御座候、恐惶(きょうこう)謹言

御百姓宿

正月二日

伊勢屋

伝次郎

猶々、御出府の節、相変わらず御蟲履(ひいき)成し下され、御最寄り

御懇意様方へ宜敷(よろしく)御風聴(ふうちょう)、御推挙の程、願

い上げ奉り候、以上